

販売所を活用しよう！

流通専攻

目的

(1) 販売所の基盤づくり

12月に新しくできる販売所の基盤づくりに向けて、販売所の運営の際に考えられる課題点を挙げた。その中の一つの「販売の回数が少ない」と予想されることから、販売以外の活用方法を検討しようと思った。私たちが学んだ、流通にかかわる問題について、地域の方にも知ってもらおう場として活用できないかと考えた。

(2) 身近な食品流通問題

7月よりレジ袋の有料化が始まった。その背景として、地球温暖化や海洋ごみ問題が挙げられる。しかし、郡上高校では販売所でレジ袋を無料で提供している。そこで、学校で廃棄される紙などを利用して紙袋を作り、レジ袋の代わりに提供することで、食品流通問題について考えてもらうきっかけが作れるのではないかと考えた。

活動内容

◇ 紙作り

〈材料〉…紙（新聞紙、段ボール、牛乳パック、シュレッター紙）、洗濯のり

〈道具〉…ミキサー、木枠（紙漉き）

- ①紙を水に浸す。（写真1）
- ②ミキサーで細かくする。（写真2）
- ③細かくした紙に洗濯のりを入れ、紙漉きに流し込む。（写真3）
- ④水になじませる。最後に水分を抜き、外で乾燥させる。乾いたら完成。（写真4）



写真1 シュレッター紙を水に浸す様子



写真2 ミキサーで細かくする様子



写真3 紙すきに流す様子



写真4 乾燥させた紙

◇ 素材選び

実際に候補の素材で紙を作り、各観点から評価した。そこから総合的に判断して、シュレッターごみを使うことにした。

【各素材の評価】

◎○△×	見た目	強度	匂い	手触り	作業効率	折った時の見栄え
新聞紙	○	○	○	○	○	○
紙パック	◎	△	○	◎	×	△
段ボール	○	◎	×	○	△	△
シュレッター	◎	○	○	○	◎	○

表1 評価結果

◇ 灰（アルカリ）

コピー紙は水を通しにくい。繊維をほぐすためにアルカリ性である灰汁に水を浸した。

成果…水よりも繊維がほぐれるようになった。

見た目も良かった。

課題…均一な厚さではない。

折ろうとすると千切れる。



写真5 アルカリを抽出

◇ 鹿渡先生に話を聞きに行く

- ・長い繊維を混ぜると丈夫な紙が作れる。
- ・シュレッター紙は繊維が短いため紙の質が良くない
- ・紙作りで重要な事は、紙をしっかりプレスすること。



写真6 お話を伺う様子

考察

紙一枚だけでは強度が弱く、ちぎれてしまうので数枚重ねて作ることで強度が増すのではないかと考えた。

均一な厚さではないため、紙を作るときに紙を均一にする必要がある。

活動内容

- ・半紙を混ぜて紙を作り、今までのものとどちらが優れているか比較する。
- ・今後はシュレッターごみを中心に、より質の高い紙を作っていく。（見た目・強度・匂い・手触り・効率）
- ・紙袋を一から生産するだけでなく、店でもらった紙袋をアレンジして再利用する方法も考えていきたい。最終的には、販売会で使えるような紙袋を生産したい。
- ・販売所に自分たちで作った紙でポスターを作り掲示する。

